

16 社会教育を推進するコーディネーターの役割及び資質向上に関する調査研究
研究代表者 馬場 祐次郎（社会教育実践研究センター長）

①研究の趣旨，ねらい

社会教育を推進し、学習を支援するコーディネーターの資質・能力の向上に関する研修プログラムの開発を行う。

②研究成果の概要

○平成19年度の調査研究報告書で示した「コーディネーターに必要な資質・能力」と「コーディネーター養成プログラムの構造モデル」の構成要素をもとに、家庭教育支援（新潟県立生涯学習推進センター：家庭教育支援者ステップアップ研修会）、学校支援（島根県教育委員会事務局生涯学習課：地域コーディネーター養成講座）、地域プラットフォーム（福岡県教育庁教育企画部社会教育課：ふくおか高齢者はつらつ活動拠点事業コーディネーター研修事業）の3領域における実証的なコーディネーター養成研修をそれぞれの地域の実態を踏まえて実施し、モデルプログラムの研究開発を行った。

特に、モデルプログラムの開発に必要な下記の下記の4点を重点的に検証した。

ア プログラム全体の構成・編成の視点

イ 学習方法選択の視点

ウ テーマ、内容、学習方法と講師の選択の考え方

エ 事業目標の達成度を評価する視点及び方法

○平成19年度に作成した構造モデルの一部を改良し、コーディネーターに求められる資質・能力を6領域16学習テーマに整理した。

○参加対象、学習内容・方法、研修時間数・回数に焦点を当て、研修プログラムの編成の具体化に必要な検討を行った。

○コーディネーター養成の達成度は、コーディネーターの活動によって地域にどのようなアウトカム（獲得・実現したい状態）が生じたかを分析することで得られるが、そのためには研修と実績の双方を診断し、養成課程全体を評価・検証することが重要である。そこで、研修事業とコーディネーターに求められる要素（知識・技術）の獲得及び地域の変容の3視点から診断するための一方法を提示した。

○家庭教育支援のコーディネーター、学校支援のコーディネーター、地域教育プラットフォームのコーディネーターの養成を想定したモデルプログラムを例示した。

○対象者のレベル、活動の場の違い、学習方法の工夫の3点から、構造モデルの活用方法について指摘した。

③中期目標との関連性

○中期目標〔目標4〕「社会教育分野での実践的な研究の推進」に関連するものである。社会教育を推進するコーディネーターの資質・能力の向上に関する研修プログラムを開発することから、特に(2)「社会教育関係職員の資質向上を図る取組への支援の実施」に関する調査研究に関連するものである。

○社会教育実践研究センターの活動目標【目標3】社会教育指導者の資質向上を図る取組への支援を行うに合致するものであり、本調査研究を通して、今後の社会教育を推進するコーディネーターの役割及び資質向上のためのモデルプログラムを開発するものである。

④今後の研究予定

○平成21年度に「学校支援ボランティアの活動を支援するコーディネーターの養成等に関する調査研究」に取り組む予定である。

⑤キーワード

- (1) コーディネーター (2) 構造モデル (3) 家庭教育支援
(4) 学校支援 (5) 地域プラットフォーム

⑥本研究の研究報告書

○社会教育を推進するコーディネーターの役割及び資質向上に関する調査研究報告書

⑦関連する先行研究や参考となる研究等

○「社会教育を推進するコーディネーターの役割及び資質向上に関する調査研究報告書」

：国立教育政策研究所社会教育実践研究センター 平成19年度

○「子どもの居場所におけるコーディネーターの研修プログラムの開発に関する調査研究報告書」

：国立教育政策研究所社会教育実践研究センター 平成17年度

○「学校における体験活動ボランティア活動のコーディネーター研修プログラムの開発に関する調査研究報告書」

：国立教育政策研究所社会教育実践研究センター 平成17年度